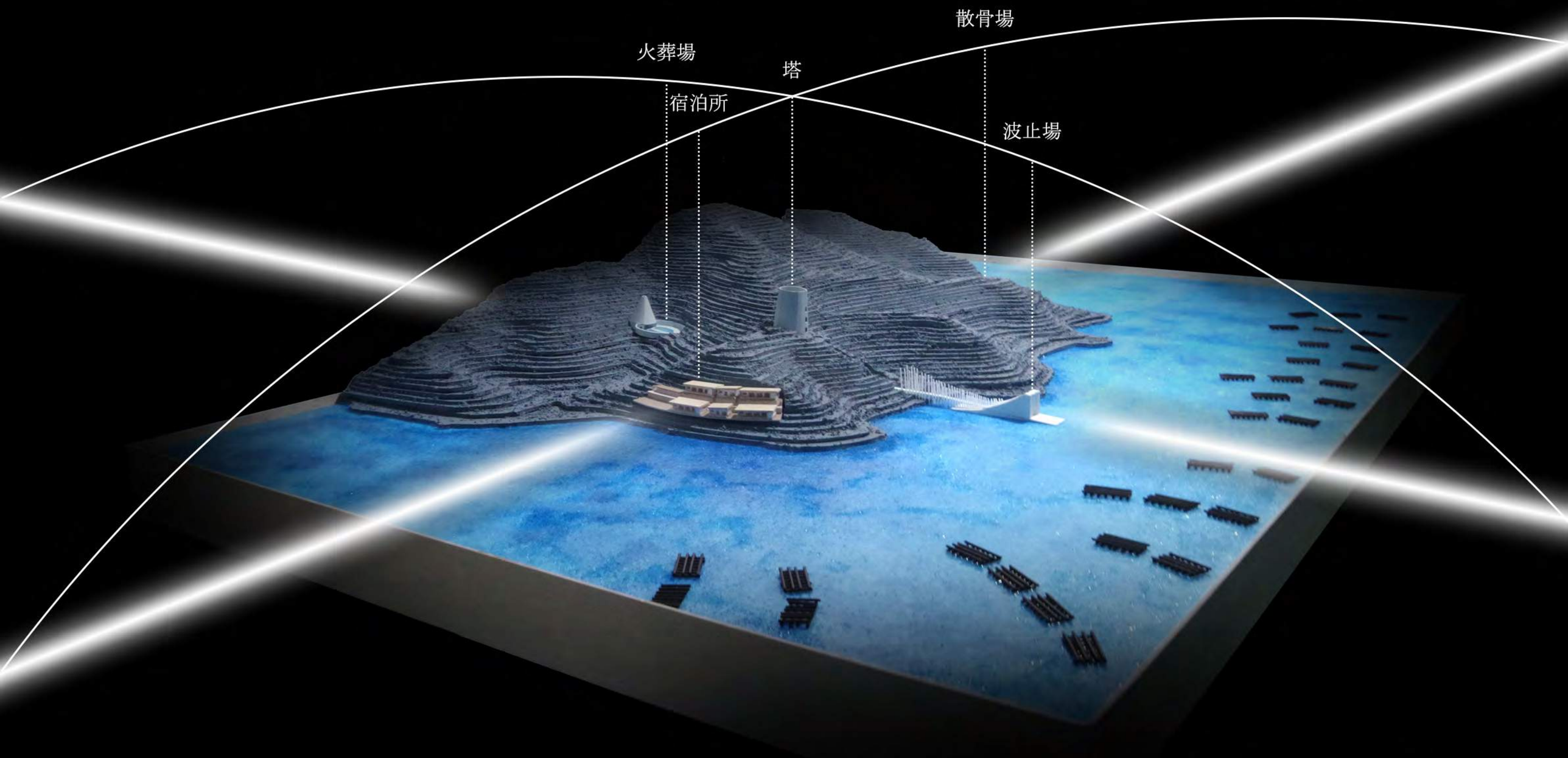
海葬・回想 —忘れてはいけない記憶—



亡くなった者、広島で起きた悲痛な過去は忘れてはいけない記憶
生命の根源である海と共に弔う

大切な友人を失った。

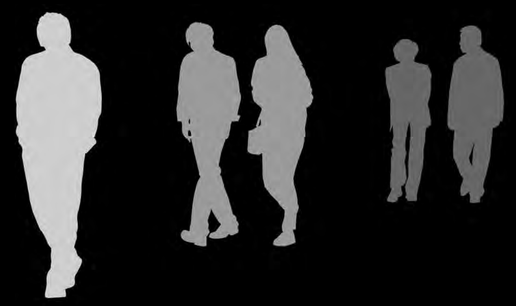
亡くなったものは私たちの記憶の中で生きる。

私たちは記憶を蘇らせるため、忘れないためにお墓の前で手を合わせ、回想する。

しかし、管理ができず、無縁仏となり、記憶から消されたお墓が増加している。

人々の記憶から無くなり、お墓の必要性が無くなっている。

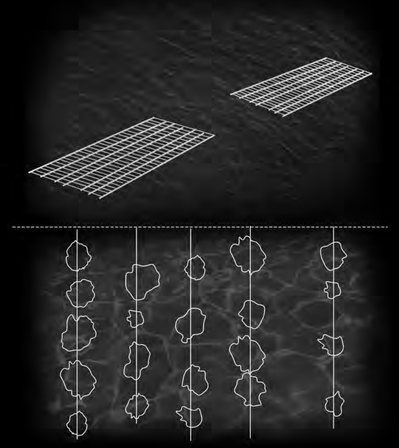
私たちはこれからどこで弔いをするのであろうか...



牡蠣筏

似島は牡蠣の養殖が盛んである島の周囲にはたくさんの牡蠣筏が浮かんでいる

地上からの見かけはただの木組みだが、水中にはたくさんの牡蠣が並んでいる



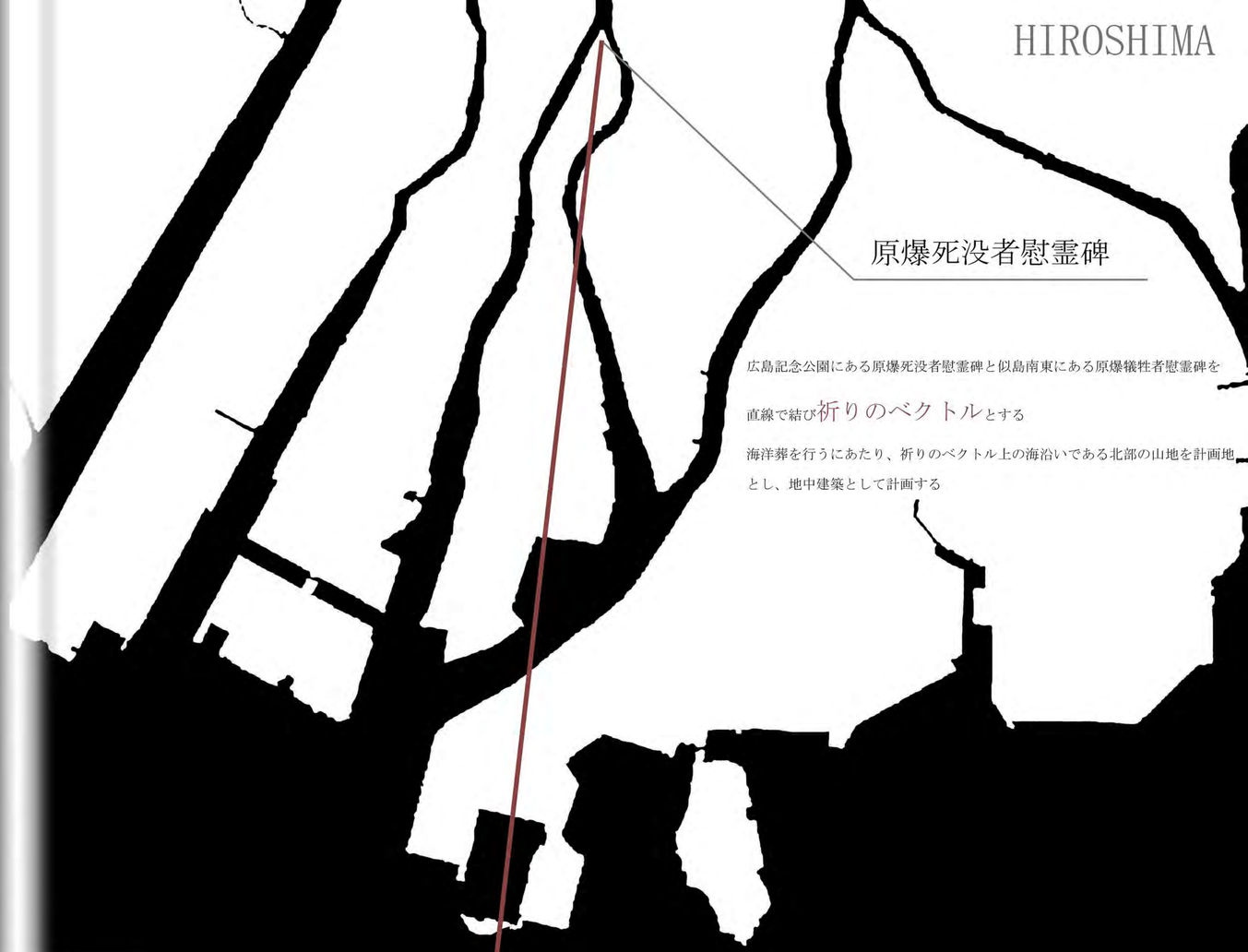
地上

水中

牡蠣筏

地中

地中建築

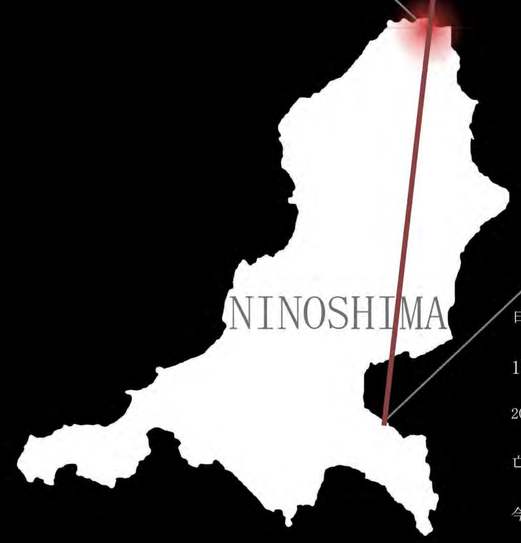


人の記憶は時が進みにつれ、薄れていく。

故人は私たちの記憶の中で生きており、忘れてはいけない存在である

お墓の必要性がない現在、新たな弔いの場が必要である。

墓標を必要としない海洋葬を用い、弔い、記憶に留める。



原爆犠牲者慰霊碑

日清戦争時、戦地から帰還した兵士に対して伝染病の検疫・消毒を行うため似島に検疫所が設置された。

1945年8月6日　広島に原爆が投下された。

20日間で約1万人の負傷者が似島に搬送され、検疫所が臨時野戦病院となり、多くの命がこの地で命を落とした。

亡くなった者は火葬も間に合わず、そのまま埋葬されていた。

今もなお、この地に当時の記憶、忘れられた生命が宿る。

ー2つのベクトルー　生命に寄り添い、感じ取る

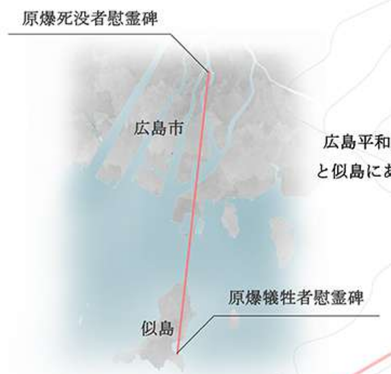
West

West-East　生命のベクトル

太陽の昇り沈みにより、生命を感じ取れる
東・西を軸にとる

North

South-North　祈りのベクトル



広島平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑
と似島にある原爆犠牲者慰霊碑を直線で結ぶ

South

East

1

ー物語の誕生ー　２つのベクトルを軸に物語が生まれる

West　あの世

散骨場

波止場

物語の始まり、似島という神聖な場所への入り口

散骨場

日が沈んでいく西はあの世とされている
西に向かっていくベクトルの先を散骨場とし
命の終わりを感じ取る

波止場

火葬場

火葬も間に合わず、埋葬されたものに寄り添うために
祈りのベクトル上に設ける

火葬場

宿泊所

宿泊所

日が昇ってくる東は私たちが生きている場
東に向かっていくベクトルの先を宿泊所とし
日の昇りと共に、命の誕生を感じ取る

East　この世

2

ー水・光ー

利用者に寄り添い、様々な空間が生まれる

中

地

天

波止場　→　火葬場

水の流れに逆らいながら火葬場へと進む

火葬場　→　散骨場

火葬が終わると故人のいない時が動き出す
水の流れに沿って現在の時の流れに戻り、散骨場へ行く

火葬場から命の根源である海に向かって
水（故人の人生）が流れる

3

ー回想・祈りの塔ー　2つの螺旋スロープを進み、忘れてはいけない記憶を蘇らせる

回想

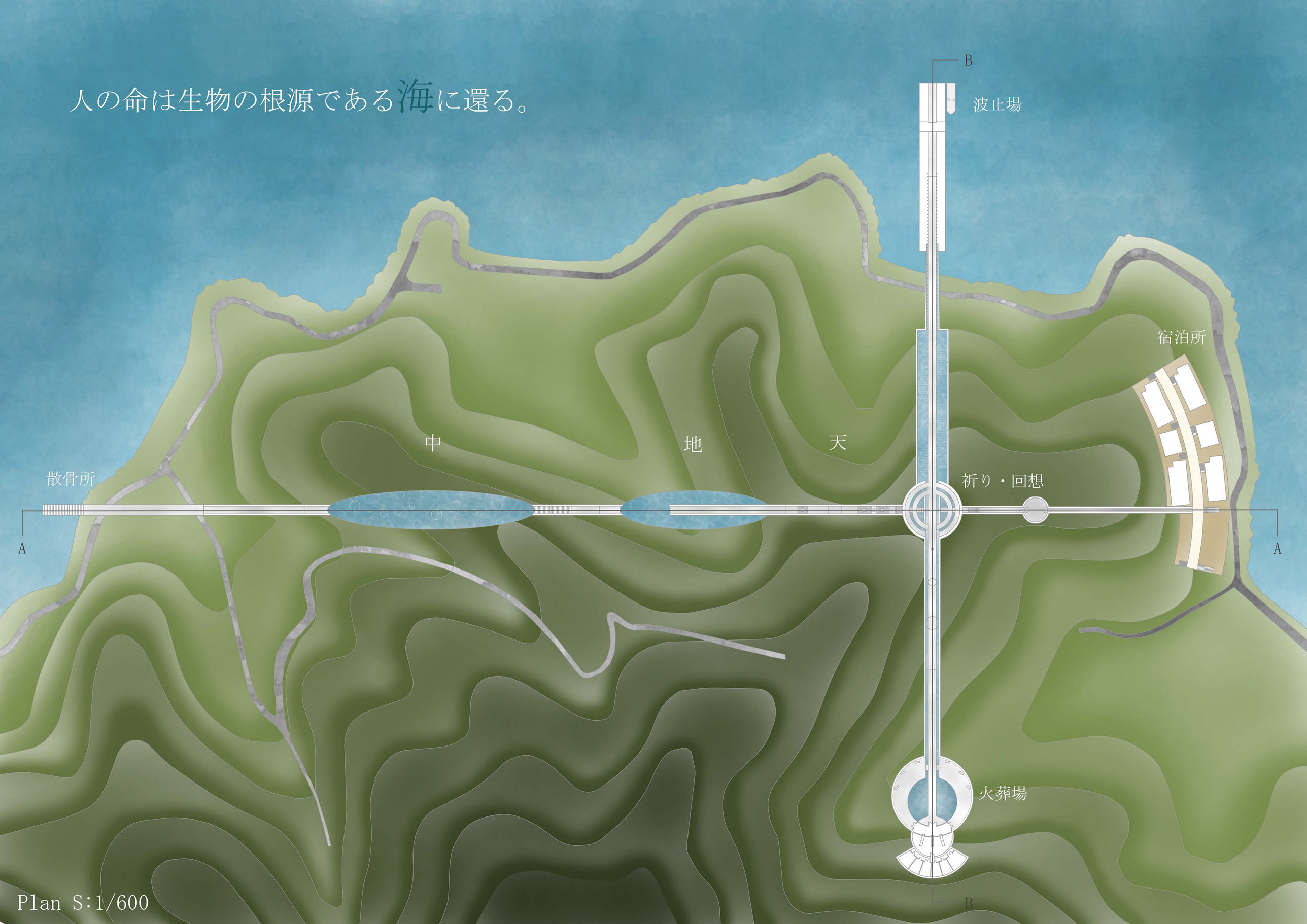
亡くなった者に寄り添うように
時計回りに天へ近づくように昇っていく

祈り

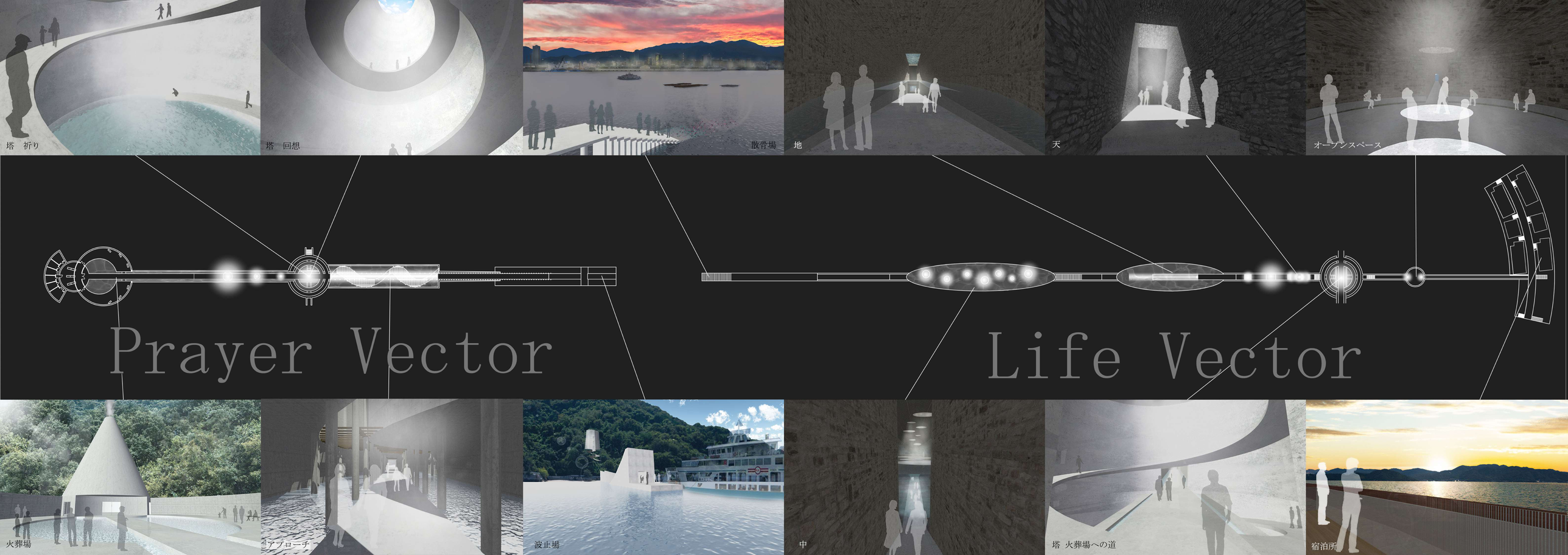
火葬も間に合わず、埋葬された者に寄り添うように
反時計回りに時間を遡りながら降りていく

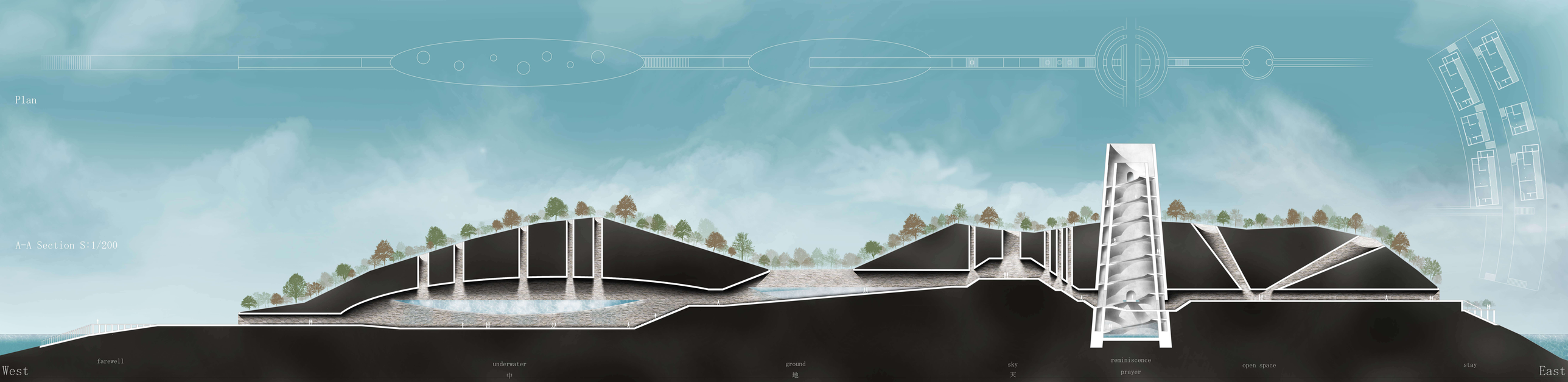
4

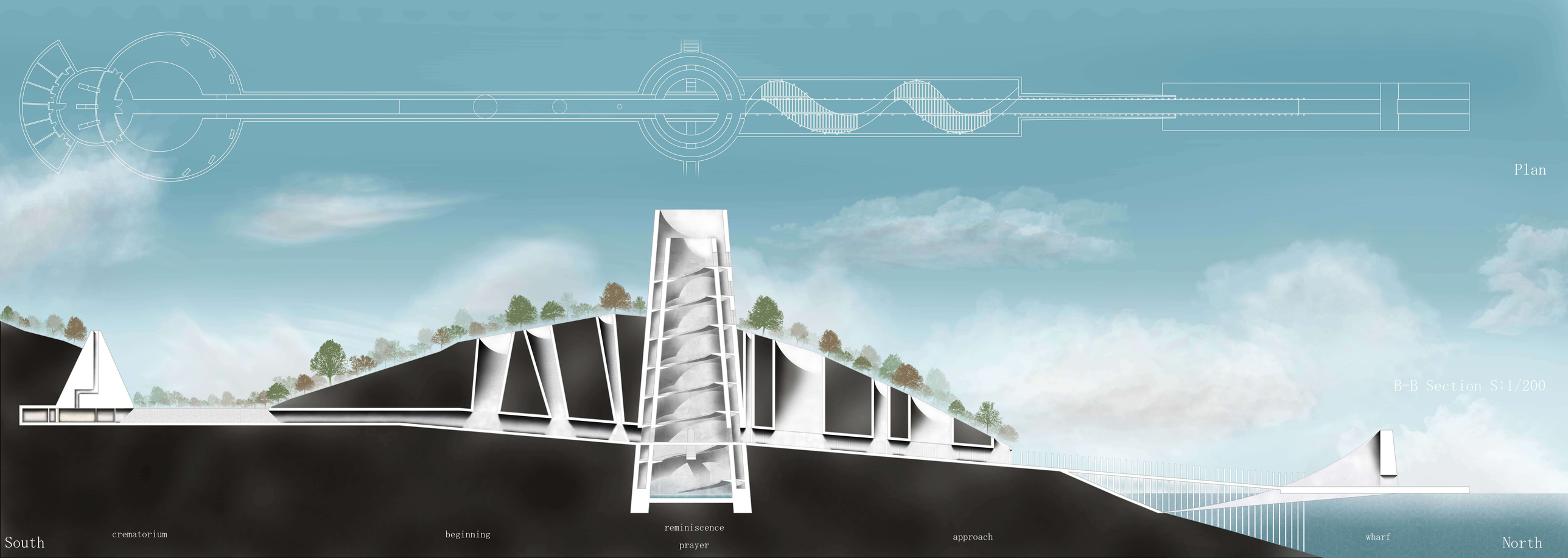
人の命は生物の根源である海に還る。



Plan S:1/600


塔　祈り
塔　回想
散骨場
地
天
オープンスペース
Prayer Vector
Life Vector
火葬場
アプローチ
波止場
中
塔 火葬場への道
宿泊所


Plan
A-A Section S:1/200
West
farewell
underwater
中
ground
地
sky
天
reminiscence
prayer
open space
stay
East


Plan
B-B Section S:1/200
South
crematorium
beginning
reminiscence
prayer
approach
wharf
North